

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(北ユニット)

事業所番号	2796400121		
法人名	オムニクス株式会社		
事業所名	グループホーム 万葉		
所在地	堺市南区豊田865-3		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景が広がる静かな風景の中に立地し、内装は木を基調として利用者様に温かみを感じて頂きながら、落ち着いて生活して頂く環境を提供しています。南北2ユニット(18名定員)が平面上にあるため、利用者がいつでも行き来できる自由さがあります。毎月のイベントのほか地域の方々と交流を深め、定期的にフラダンス・ボール体操・太極拳・将棋・社交ダンス等のボランティアさんが来ていただき、利用者様も参加して楽しんでいます。また利用者全員で地域のお店でデザート食べたり、近くの公園へ花見に出かけています。利用者様の人生で貴重な時間を有意義に過ごして頂くよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の職員の殆どが地域の住民で、地域でボランティア活動を積極的に行い地域に貢献している。その職員がボランティア仲間に事業所へボランティアとして来て貰っている。ボランティアを通して地域交流が出来ている。それは、ボール体操・将棋、ダンス等々多岐に亘っている。いざという時の心強い仲間でもある。
 のどかな田園風景の広がる中に立地している事業所の願いは、自然の中でお年寄りが、残された人生を有意義に過ごされ、ここが我が家と認識していただく事だと言う。利用者職員が共に調理をしたり家庭菜園を楽しんでいる家庭的な風景が、ここでは見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関に掲げています。職員会議等でその理念と現状の自分の介護を照らし合わせ考える機会を持っています。	「ほほえみの暮らし、いやしの暮らし、あんどの暮らし」と三つの暮らしを事業所の理念とし、毎月の職員会議でその理念が達成されているか確認している。今後、具体的な目標をたてて、より良い事業所づくりを目指すようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームのイベント等は地域のボランティアさんに来て頂いてます。地域の行事にも参加しています。また外食や買い物、かかりつけ医も近隣を利用しています。利用者の散歩時も近隣の方々とコミュニケーションをとっています。	地域に住む職員が、地域でボランティア活動を行っている。その仲間が、当事業所へ来て色々なボランティア活動をしてきている。将棋の相手をしてくれたり、ボール体操など多岐に亘っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事等を自治会にも認識して頂き、いつでも来て頂ける雰囲気づくり努めていく考えです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回開いています。ホームの現状報告や今後の予定、課題への取り組み、家族等の意見を聞く場とさせていただいています。	会議は利用者家族、自治会、知見者、地域包括支援センター職員、事業所職員等で構成され、隔月に開催している。会議は事業所からの報告だけでなく行事に関する事等話し合いを行いサービスの向上に活かしている。利用者の参加も計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者への空室・待機状況を定期的に報告しています。地域包括センターと連携し、入居相談等行っています。	地域包括支援センター職員には運営推進会議に参加して情報提供や指導をいただいているが、区役所担当窓口には都度訪問したり電話をしたりしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限は行いませんが、幹線道路も近くにあり、利用者のその日の状況により玄関を施錠することもあります。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える精神的苦痛を理解し、研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。玄関出入り口には事務所があり、目の行き届くときは自由に出入りが出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で議題の一つとして話し合うこともあったが、重要な事柄であるので次回勉強会のテーマに予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者に対し関係者との連携をはかり支援していく考えです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等については丁寧に説明し、十分納得して頂いた上で締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を伺ったり、家族会を開いています。	運営推進会議の他に、利用者には平素の会話の中から、家族等とは来訪時や家族会等で、意見や要望を聞き出すようにしている。夏期のシャワー浴等、参加者の意見をケアに反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出し合ったり、不定期ですが、アンケート等で日頃の考えを把握するよう努めています。	月に一回、職員会議を行い、シフトや待遇、利用者の対応に関する事など、運営に関する職員の意見を聞く機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と管理者が何でも相談できる関係性を持つよう努力でしています。又環境整備にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を情報を掲示し、参加しやすいよう勤務調整を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月開かれる南地区グループホーム連絡会、年2回の堺市グループホーム全体会議に出席し情報交換や勉強会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと本人と向き合い、徐々に距離間をなくす関係性をつくり、本人の立場に立ち傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話せる環境をつくることに努力し、徐々に信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにより最重要課題を見極め、本人と家族の要望にも出来るだけ応えていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に関わる中から信頼関係を構築する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会した際等、家族と情報を共有し、本人の望みのために何が出来るかをともに考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が面会しやすい環境をつくり、また家族と本人の外食・外泊等、ともに過ごす時間を大切に考えています。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。家族の対応の難しい利用者には、墓参等に職員が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がいかに楽しく生活出来るか、有意義に過ごせるかを考え、席の配置等を常に考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了以降も家族からの相談等にはいつでも応じるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議等で利用者各々の体調や心情の変化、意向や悩み等職員が感じ取った事を話し合い、どうすれば本人の願いに沿った介助が出来るか意見交換し以降の接し方を考えている。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中から、食事の希望や趣味等を聞き出し、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族から話を聴き、今までの暮らし方、考え方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々介護する中で変化していく利用者の能力等を意識しながら正確に見極め職員同士情報を共有していく方向に努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開いている職員会議ユニット合同で利用者各々のケースについて意見交換し、検討、調整を行い、今後の計画の基にしている。	介護計画の期間は一応長期計画を12ヶ月、短期を3ヶ月としているが、変化が起きた時には、その都度ユニット合同で関係者と話し合い、臨機応変に介護計画の見直しをするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日行う朝・夕の申し送りで利用者の変化や注意点を確認共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者各々の必需品購入やその利用者ごとのサービスの情報提供に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店で買い物や外食を利用したり、公園や神社等散歩等やレクに利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を踏まえたうえで月2回の定期往診や急を要する利用者にはその都度往診に来てもらっています。そのために主治医と24時間連絡がとれる体制をつくっています。	受診は本人や家族等との話し合いの上、殆どは法人の協力医療機関をかかりつけ医としているが、馴染みのかかりつけ医の受診も家族の協力を得ながら支援するようにしている。法人の協力医療機関とは、24時間のオンコール体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回定期的に同法人の看護ステーションから訪問来所する体制をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の紹介で医療機関への入院をスムーズに行っています。又入院時は医療機関に出来るだけの日々の状況等の情報提供に努めています。退院時は今後のホームでの介護について医療機関と話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を説明、同意をうけています。昨年オープン以来まだ重度化の方はおられません。が今後はそのような場合は主治医と対応・方針を共有していきます。	事業所独自の重度化対応・終末期ケア対応指針を作成して契約時に説明、同意書を交わし基本的な考え方を共有している。また、重度化し終末期を迎えた時には、再度確認することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で対応の確認をしたり、緊急時の対応を掲示して日々確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や運営推進会議で自治会と避難所確認をして職員に伝えていきます。	災害時における避難訓練や消防訓練を利用者と共に年に2回、消防署指導のもと行っている。災害に備えた備蓄備品も整えられている。しかし、地域の方々と共に行う夜間想定避難協力体制は不十分である。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを近隣の方をお願いするなど、いざという時に混乱しないような役割分担が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者に対しては常に尊敬の念を持ち、言葉使いや対応には注意を払っています。	食事介助やトイレ誘導などにおいて、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が見られた。個人情報も事務所の書棚に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思い願望を言葉で表現できる環境をつくるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操以外は出来るだけその方の意思を優先し、強要はしないよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者には職員が希望を聞いてマニキュアを施したり、好きな洋服を選んだりして、気分転換をはかっています。また毎月のフラダンスの時はお化粧を希望する利用者には支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が考えて季節を感じる献立を考えたり、毎月おやつレクをして自分でつくる楽しみを感じてもらっています。	利用者の好みを聞きながら食材は職員が購入し、献立も考えて作っている。調理、盛り付け、後片づけも利用者と共に家庭的な雰囲気の中で行われている。しかし、職員は食事介護に徹していて同じ食卓を囲んで食事する風景は見られなかった。	食事は、暮らし全体の中で楽しみの一つとして大きなウエイトを占めている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで同じ物を楽しく食べる家庭的な雰囲気は是非作りあげて欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の咀嚼・嚥下能力によって食事形態の変更をしています。また注意を要する利用者には医師の助言をもらい栄養や水分量を調整しています。食事量、水分量は介護記録		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その都度介護日誌に記入し、チェックしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員会議で各利用者の最新の能力の情報を共有し、出来るだけ安全で、けっして過剰介護にならないよう本人の能力を引き出す介助をするよう心掛けている。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、あからさまな誘導ではなく、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った支援がされている。オムツ使用は一人のみで、6割が自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の申し送りで便秘の情報を共有し排便があるまで申し送っています。その間利用者の頓服薬の経過や運動の成果等も伝えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日ごと(週2回)の入浴は決まっていますが、その日の体調等を考慮して調整しています。	日曜日を除いて毎日沸かしていて、一日に3人ずつ入れるようにしている。ばたばたせずに、ゆったりと入浴が楽しみな憩いの時間になるように、個々にそった支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体力や年齢、習慣により午睡を実施している利用者もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品保管庫や各フロアの薬置場には利用者個人別の一日の服薬の表が掲示している。また職員どうしでチェック体制をとり誤薬防止につとめている。薬が変更時は職員閲覧ノートや各フロアホワイトボードに記入、申し送り等で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の能力や興味の度合いにより、調理の手伝いや洗濯物のおりたたみ、簡単な居室の掃除、野菜づくり等行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や利用者が外出を希望される時は協力、調整しています。また利用者全員で近隣の公園へ花見に出かけたり、地域のお店にデザートを食べに出かけています。	春・秋など気候の良い時は出来るだけ、利用者のその日の希望に添って事業所の周辺を散歩したり、近隣の公園へ出掛けたりしている。今後は、浜寺公園やハーベストの丘などにも出掛ける計画です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは利用者に認知症があり、トラブルの原因になるため金銭の所持は認めていません。買い物の際は職員が同伴し、支払い時に職員からお金を利用者に渡し、利用者が店員に支払うようにして使う大切さを体感して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話希望者には家族だけにかかる設定にして所持されています。(家族了承)また手紙については、家族や知人から手紙が届いた時は本人に返事を書いて頂き職員が投函しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は安全・清潔を常に心がけています。両ユニットフロアから中庭が望め季節感を体感して頂いています。また玄関ロビーには季節ごとに飾り付けを変え季節感を出しています。	エントランスホールの共有スペースには、行事の写真や編み物、絵画・書道など利用者の作品が展示されている。そして左右に北のユニットがあり、高級ホテルと見紛うような広いゆったりとしたダイニング・リビングルームがある。そこには会話や歌声など、利用者の楽しそうな団欒の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では気の合った利用者同士の談話やレクなど自由に席を行き来できる環境をつくっています。また両ユニットが同じ階にあるので利用者が好きな時に行きされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険性がないものであれば利用者や家族と相談して持ち込んでいただいています。(仏壇・テレビ・写真・置物等)	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ利用者が確認できるようにになっています。内部は基本的にバリアフリーです。		